

思 索

第 四 十 七 号

座小田豊先生 御退職記念号

2014

東 北 大 学 哲 学 研 究 会



座小田豊先生近影
2014年

献呈の辞

座小田豊先生は、明年三月をもって定年御退職により東北大学文学部哲学講座を去られることになりました。御在任十七年の長きにわたり多くの者が学恩に浴しました。ささやかではありますが、ここに記念論文集を編み感謝の微意として先生の机下に捧げます。

受業生一同

座小田豊先生略歴

一九四九年九月 福岡県戸畑市に生まれる

一九六八年三月 福岡県立戸畑高等学校卒業

一九六九年四月 東北大学文学部入学

一九七三年三月 東北大学文学部哲学専攻卒業

一九七三年四月 東北大学大学院文学研究科修士課程入学

一九七五年三月 同前 修士課程修了

一九七五年四月 同前 博士課程進学

一九七八年三月 同前 博士課程単位修得退学

一九七八年四月 東北大学文学部助手

一九八一年三月 弘前大学教養部助教授

一九九二年四月 東北大学教養部助教授

一九九三年四月 東北大学大学院国際文化研究科助教授

一九九八年四月 東北大学文学部助教授

一九九九年四月 東北大学文学部教授

- 二〇〇〇年四月 東北大学大学院文学研究科教授
 二〇〇五年四月 ケルン大学客員研究員 (Gastwissenschaftler) (二〇〇五年九月)
 二〇一一年四月 東北大学教育研究評議員 (二〇一三年三月)
 二〇一一年四月 東北大学文学部副学部長・大学院副研究科長 (二〇一三年三月)
 二〇一三年四月 東北大学大学院文学研究科教授 (現在に至る)

研究 歴

〔共著・編著〕

- 1 『ヘーゲル——時代との対話』、講座〈ドイツ観念論〉第五卷 (廣松渉ほかと共著) 弘文堂、一九九〇年十一月
- 2 『ヘーゲル哲学への新視角』(加藤尚武ほかと共著) 創文社、一九九九年五月
- 3 『ヘーゲル——知の教科書』(今村仁司と共編) 講談社メチエ、二〇〇四年三月
- 4 『今を生きる——東日本大震災から明日へ! 第一巻 人間として』(尾崎彰宏と共編) 東北大学出版会、二〇一二年三月
- 5 『ヘーゲル『精神現象学』入門』(加藤尚武ほかと共著) 講談社学術文庫、二〇一二年五月
- 6 『防災と復興の知——3・11以後を生きる』(田中克、川崎一朗と共著) 大学出版部協会、二〇一四年六月

〔論文〕

- 1 「自由と共同——イェナ期ヘーゲルにおける個別者の問題——」、「思索」第九号、東北大学哲学研究会、一九七六年十月
- 2 「ギリシア的なるものの再構成、あるいは理想と現実の架橋」、「文化」第四三卷三一四号、東北大学文学会、一九八〇年三月
- 3 「第四章 人間の現実存在としてのコギト」、加藤尚武(編)『ヘーゲル「精神現象学」入門』有斐閣、一九八三年一月
- 4 「第六章 和解にいたる『精神』の歴史」のうち二四—二六節、同前、一九八三年一月
- 5 「絶対無と無限性——イェナ初期ヘーゲルにおける『絶対的なもの』をめぐる問題について——」、「文化紀要」第一九号、弘前大学教養部、一九八四年一月
- 6 「『自己意識』の問題におけるフィヒテ知識学の意義について」、D・ヘンリッヒ『フィヒテの根源的洞察』(座小田豊・小松恵一訳)所収、法政大学出版社、一九八六年十月
- 7 「社会科学における『客観性』の問題」、滝浦静雄(編)『哲学の再構築』南窓社、一九八七年三月
- 8 「ヘーゲル哲学の根底にあるもの——主観性と神の思想」、「哲学会誌」第二三号、弘前大学哲学会、一九八八年四月
- 9 「道徳性と人倫——『実践哲学の復権』とヘーゲル」、加藤尚武ほか(編)『ヘーゲル哲学の現在』世界思想社、一九八八年十一月
- 10 「精神と国家」、加藤尚武ほか(編)『ヘーゲル——時代との対話』講座〈ドイツ観念論〉第五卷、弘文堂、一

九九〇年十一月

11 「意識と自由——ヘーゲル哲学における『自由』の意味について——」、『東北大学教養部紀要』第六〇号、一九九三年三月

12 「現代神学の中のヘーゲル」、『現代思想』第二二巻第八号、青土社、一九九三年七月

13 「第五章 世界を自己とみなす自己意識(2)——行為する理性」、加藤尚武(編)『ヘーゲル「精神現象学」入門 新版』有斐閣、一九九六年一月

14 「第六章 和解にいたる精神の歴史」のうち二一—二三節および二七—二八節、同前、一九九六年一月

15 「社会批判——主体の自己実現の思想——」、杉田泰一ほか(編)『現代の思想』金港堂、一九九六年三月

16 「無限性と主観性——近代における自由のアポリアをめぐる——」、『ヨーロッパ研究』第一号、東北大学大学院国際文化研究科、一九九六年三月

17 「必然性と自由——ヘーゲル哲学における自由の意味について——」、『思索』第三〇号、東北大学哲学研究会、一九九七年十月

18 「否定的なもの」の意義について、「ヨーロッパ研究」第二号、東北大学大学院国際文化研究科、一九九八年九月

19 「精神哲学の成立——イェーナ体系構想における『無限性』概念の意義——」、加藤尚武(編)『ヘーゲル哲学への新視角』創文社、一九九九年五月

20 「自己と他者、われわれ、そして……」、『ヨーロッパ研究』第三号、東北大学国際文化研究科、二〇〇〇年九月

21 「精神現象学」——精神の登高の物語」、加藤尚武(編)『ヘーゲルを学ぶ人のために』世界思想社、二〇〇〇

一年一月

- 22 「近代哲学における『神』の問題」、『哲学会誌』第三五号、弘前大学哲学会、二〇〇一年一月
- 23 「懐疑する『自己』と『無限』、あるいは『理性』のラビリンズ——ヘーゲルにおける『懐疑主義』を手がかりに——」、『思索』第三六号、東北大学哲学研究会、二〇〇三年十月
- 24 「フィヒテにおける『真実の生』をめぐって——「一八一二年の道徳論」を中心に——」、『東北哲学会年報』第二二号、東北哲学会、二〇〇六年五月
- 25 「芸術と無限」、栗原隆（編）『芸術の始まる時、尽きる時』東北大学出版会、二〇〇七年四月
- 26 「フィヒテ——無限の自我と真実の生——」、加藤尚武（編）『哲学の歴史』第七卷、中央公論新社、二〇〇七年七月
- 27 「『真実の生』における人間——フィヒテ宗教論の射程」、『フィヒテ研究』第一五号、日本フィヒテ協会、二〇〇七年十一月
- 28 「『無限』の形象化と心の變——構想力の可能性について——」、栗原隆（編）『形と空間のなかの私』東北大学出版会、二〇〇八年五月
- 29 「『自由』の運命としての否定性——おのれを実現する懐疑主義——『精神現象学』二〇〇〇年記念シンポジウム」についてのメモランダ」、『ヘーゲル哲学研究』第一四号、日本ヘーゲル学会、二〇〇八年十二月
- 30 「『神を認識する』とはどのようなことか？——ヘーゲル哲学における『神』の問題——」、『シェリング年報』第一七号、日本シェリング協会、二〇〇九年十月
- 31 「ヘーゲル哲学における神の思想——『自由』概念の根本にあるもの——」、『フィロソフィア・イワテ』第四

- 二号、岩手哲学会、二〇一〇年十一月
- 32 「共有知としての『良心』についての一考察——『良心』は誰のものか?」、栗原隆(編)『共感と感応——人間学の新たな地平——』東北大学出版会、二〇一一年五月
- 33 『媒語』としての精神の可能性について、『ヘーゲル哲学研究』第一七号、日本ヘーゲル学会、二〇一一年十二月
- 34 『人間として』問いかけること、座小田豊・尾崎彰宏(編)『今を生きる——東日本大震災から明日へ!』第一巻 人間として』東北大学出版会、二〇一二年三月
- 35 「精神の生活——『喪われた者たち』の『記憶』と『ふるさと』の根源的な力について——」、同前、二〇一二年三月
- 36 「共通知としての『良心』——その始まりと神の問題——」、栗原隆(編)『世界の感覚と生の気分』ナカニシヤ出版、二〇一二年五月
- 37 "Unendlichkeit und Negativität-über die Entstehung der Philosophie des Geistes in Hegels Jenaer Systementwürfen", in: *Hegel in Japan*, hrsg. von Y. Kubo, S. Yamaguchi und L. Knatz, Münster, 2014 (in Vorbereitung)
- 38 「自然」の根源性と『ふるさと』の可能性について——ヘーゲルのイェーナ「自然哲学」構想を手掛かりに——、第四回日中哲学フォーラム予稿集、二〇一四年九月
- 39 「無限性と否定性——ヘーゲルのイェーナ体系構想における「精神哲学」の成立——」、『思索』第四六号、東北大学哲学研究会、二〇一四年一〇月

〔翻訳〕

- 1 I・フェッチャー『ヘーゲル——その偉大さと限界——』（加藤尚武と共訳）理想社、一九七八年十月
- 2 G・W・F・ヘーゲル『国家体制論』（山崎純と共訳）、『現代思想』臨時増刊号、第六卷第一六号、一九七八年十二月
- 3 D・ヘンリッヒ『神の存在論的証明』（須田朗、中村文郎、本間謙二と共訳）法政大学出版社、一九八六年八月
- 4 D・ヘンリッヒ『フィヒテの根源的洞察』（小松恵一と共訳）法政大学出版社、一九八六年十月
- 5 C・F・V・ヴァイツェカー『時は迫れり——現代世界の危機への提言——』法政大学出版社、一九八八年五月
- 6 H||G・ガダマー『科学の時代における理性』（本間謙二と共訳）法政大学出版社、一九八八年九月
- 7 W・パネンベルク『形而上学と神の思想』（諸岡道比古と共訳）法政大学出版社、一九九〇年一月
- 8 『フィヒテ—シェリング往復書簡』（後藤嘉也と共訳）法政大学出版社、一九九〇年五月
- 9 W・パネンベルク『神の思想と人間の自由』（諸岡道比古と共訳）法政大学出版社、一九九一年十二月
- 10 H・ハイムゼート『近代哲学の精神』（後藤嘉也、須田朗、宮武昭、本間謙二と共訳）法政大学出版社、一九九五年七月
- 11 『統へーゲル読本——翻訳篇・読みの水準——』（加藤尚武・座小田豊共編訳）法政大学出版社、一九九七年三月

全十一章のうち分担訳したもの

- 一、第一章 ヘーゲルの政治哲学 (J・ハーバース著、藤沢賢一郎と共訳)
- 二、第三章 絶対精神と有限者の論理 (D・ヘンリッヒ著、石川伊織と共訳)
- 三、第八章 精神とその他者 (W・パネンベルク著、山口誠一と共訳)
- 四、第九章 道徳性と人倫 (J・リッター著、栗原隆と共訳)
- 五、第十一章 「歴史は『自由の意識』における進歩である」 (F・ヘスベ著、吉田達と共訳)
- 12 G・W・F・ヘーゲル『イェーナ体系構想、精神哲学草稿Ⅰ (一八〇三—一八〇四年)・Ⅱ (一八〇五—一八〇六年)』(加藤尚武、栗原隆、滝口清栄、山崎純と共訳) 法政大学出版社、一九九九年十二月
- 13 H・ブルーメンベルク『コペルニクスの宇宙の生成』第一巻 (小熊正久、後藤嘉也と共訳) 法政大学出版社、二〇〇二年十二月
- 14 G・W・F・ヘーゲル「F・H・ヤコービ著作集第三巻の書評」(山口誠一、寄川条治と共訳)、寄川条治(編訳)『初期ヘーゲル哲学の軌跡』ナカニシヤ出版、二〇〇六年一月
- 15 G・W・F・ヘーゲル『美学講義 (一八二〇/二一年)』、科学研究費補助金(基盤研究(A))『芸術終焉論の持つ歴史的な文脈と現代的な意味についての研究』(代表・新潟大学 栗原隆) 研究成果報告書、二〇〇六年三月、九一—一二三頁
- 16 G・W・F・ヘーゲル『ドイツ憲法論』三つの草稿(阿部ふく子、鈴木亮三と共訳・監訳)、同前、研究成果報告書、二〇〇六年三月、一一五—一二二頁
- 17 E・フィンク『存在と人間——存在論的経験の本質について——』(信太郎、池田準と共訳) 法政大学出版社、二〇〇七年四月

- 18 G・W・F・ヘーゲル『芸術の哲学 一八二六年夏学期の講義』、科学研究費補助金（基盤研究（B））『新旧論争』に顧みる進歩史観の意義と限界、並びにそれに代わり得る歴史モデルの研究』（代表：新潟大学 栗原隆）研究成果報告書、二〇〇八年三月、一四九―一七五頁
- 19 H・ブルーメンベルク『コペルニクスの宇宙の生成』第二卷（小熊正久、後藤嘉也と共訳）法政大学出版社、二〇〇八年七月
- 20 J・G・フイヒテ『道徳論の体系 一八一二年』、『フイヒテ全集』第二卷所収、哲書房、二〇〇九年三月
- 21 H・ブルーメンベルク『コペルニクスの宇宙の生成』第三卷（小熊正久、後藤嘉也と共訳）法政大学出版社、二〇一一年十月
- 22 W・イエシユケ『ヘーゲル・ハンドブック』（久保陽一、島崎隆、山口誠一、高山守、神山伸弘と共訳・監訳）知泉書館、二〇一五年（刊行予定）

〔学会活動等〕

東北哲学会 委員（一九九九年～現在）

会長（二〇〇八年四月～二〇一四年三月）

東北大学哲学研究会 代表（二〇〇八年～現在）

日本哲学会 委員（一九九九年～二〇一〇年）

評議員（二〇一一年～現在）

理事（二〇一一年～二〇二二年）

編集委員（一九九九年～二〇〇二年）

編集委員長（二〇〇七年～二〇〇八年）

日本ヘーゲル学会

論文審査委員（二〇〇七年～二〇一〇年）

監事（二〇〇九年～二〇一一年）

理事（二〇一三年～二〇一四年）

公募論文審査委員長（二〇一三年～二〇一四年）

東北大学出版会

理事（一九九九年～現在）

副理事長（二〇一〇年～現在）